

# 第1回堺市文化芸術審議会 議事録（要旨）

## 1 開催日時

平成30年6月28日（木）10時～12時

## 2 開催場所

堺市役所 本館3階 大会議室 第2会議室

## 3 出席委員（50音順・敬称略）

河内 厚郎 委員	（文化プロデューサー）
砂田 和道 委員	（くらしに音楽プロジェクト事務局長）
添田 晴雄 委員	（大阪市立大学大学院文学研究科教授）
田辺 竹雲齋 委員	（竹工芸家）
丹波 久美子 委員	（公募委員）
中川 幾郎 委員	（帝塚山大学名誉教授）
服部 滋樹 委員	（有限会社デコラティブモードナンバーズリー代表）
原 久子 委員	（大阪電気通信大学総合情報学部教授）
弘本 由香里 委員	（大阪ガス株式会社エネルギー・文化研究所特任研究員）
堀場 英史 委員	（公募委員）
安井 寿磨子 委員	（銅版画家）

## 4 事務局職員

左近文化部長、永野文化課長 ほか

## 5 関係者

公益財団法人堺市文化振興財団  
事務局長、総務課長、事業課長、堺市民芸術文化ホール準備室長

## 6 議題

- （1）堺市文化芸術審議会に対する諮問について
- （2）平成29～30年度対象事業の評価について
- （3）平成30～31年度対象事業の調査について

### 開会

---

### 議題

#### (1) 堺市文化芸術審議会に対する諮問について

---

<事務局より説明>

○砂田委員

審議会では市長の諮問に基づいて検討していくと思いますが、昨年度も推進計画の状況の評価しました。今年度も引き続きということですが、審議会としては、これだけを今年1年取り扱うということでしょうか。それとも、他の案件もあるのでしょうか。

◎会長

諮問事項に関しては答えを出さないといけません、他についても自由に審議することはできます。

○砂田議員

分かりました。

◎会長

事務局として、そういった回答でよろしいですか。

●事務局

自由都市堺文化芸術まちづくり条例に定める審議会の役割は、市長からの諮問について審議いただくということに加え、文化芸術の振興という角度から審議いただくことで、そのあたりの議論を行っていただけるということによろしいかと思えます。

#### (2) 平成29～30年度対象事業の評価について

---

<事務局より説明>

○砂田委員

私は条例策定時から関わっていて、推進計画について大きな責任があると思っていますが、昨年度、今年度と評価する中で、評価の視点というか、評価シートの書式がずっと同じです。すると、毎年同じ立ち位置から評価することになり、11の基本的施策を一巡するまで3年間同じ立ち位置からの評価になる。ということは、4年目に計画の掲げる評価指標が相応しいか、次の計画に向けてどう検討すべきなのかということになり、いたずらに2～3年過ぎてから改善していくことになる。昨年度の審議会でも、評価は臨機に展開していくべきだという方向性になったと思いますが、このまま2～3年費やしてから次のステップに

進むよりも、徐々に変えていくという考え方が必要で、そのあたりをどのように加味していくかを審議会でも検討しなければならないと思います。

#### ◎会長

これについて事務局からご意見いただけると嬉しいのですが。

私は、途中で様式を加工修正することは全く問題ないと思います。決まった書式を守り切らないといけないとは思いません。ただ、事務局が視察を3年間で11の基本的施策を評価する形にされたということは、細やかな奥深い評価をしてほしいということだと思えます。1年間で全ての基本的施策を評価すると、評価が上辺だけになるのではないかという懸念があり、このように細やかに分けたのだと好意的に解釈しています。とはいえ、シートの様式、概念、指標を完璧に固定するものではないと思います。途中で評価指標を変えた方がよいという議論があれば、審議会で発議し、行政とも議論しながら変えていくのも、やぶさかではないのではないかと思います。

#### ●事務局

砂田委員がおっしゃるように、専門家の視点で様々な角度から評価していただくのが非常に有難いと思っています。推進計画をどのような形で評価すれば良いかということで、計画の目標達成に向けて、11の基本的施策にしっかり取り組んでいるか確認するために、各施策にぶら下がっている具体的取組が基本的施策の中で有効に機能しているかという視点で評価すべきだという答申を、28年度にいただきました。具体的取組を全て見ることはできないので、抽出して評価するにはこのような評価シートが分かりやすいのではないかと考えて、提案させていただきました。ただ、もう少しこういったものを加えた方がよく分かるのではないかとすることがあれば、柔軟に対応したいと考えています。

#### ○砂田議員

3年前に指標を検討しましたが、当時はまだ評価の経験が国内各地を含めあまりない段階でした。評価の叩き台が事務局から提示されましたが、評価指標は1つの文言になっています。おそらく従来の市の各種評価を参考にしたものだと思いますが、1つの文言だけを指標にして評価する形で良いのか、もう少し細かい指標が必要ではないかということ、この3年間で感じています。他の自治体で評価をしたときに、事業目標が具体的でないために評価しづらいという状況があった。それは歴史的な流れの中で、事業目標を掲げることの黎明期だったからだとして解釈しています。ワンフレーズの評価指標で2年3年とやっていると、色々進化していく中で遅れをとるのではないかと。計画でこうした指標を掲げたのは事実ですが、その中で、大項目を評価指標とするなら中項目はどうするか、小項目までいけば良いですが、中項目をどうするかという議論はしておく方が、次年度のために前進できるのではないかと思います。

#### ◎会長

やってみないと分からないのではないのでしょうか。評価指標について今議論すると空中戦になる気がします。それよりも、現場を視察した上で評価するという癖をつけていく。その中で評価指標がずれているのではないかと、この取り組みは基本的施策の基本コンセプト

トからするとあまり力を発揮していないのではないか、という議論が出てくると思います。その中で、今回のように、基本的施策の評価シートと具体的取組の評価シートの2つに分けてあるのはヒットだと思います。指標については視察してから或いは視察しながら考える形で良いと思います。評価に関して先行的な研究事業は全く積み上がっていないと思うので、そこからの知見は手に入りません。大項目（基本的施策）のコンセプト、中項目（具体的取組）のコンセプト、個別事業のコンセプトを明確にするということは確認するのが良いと思います。

○服部委員

毎年のトピックを少し議論して、前年こうでしたよね、今年は多分こうですよ、くらいの話で良いと思いますが。

◎会長

それくらいでやってほしい。

○服部委員

そうですね。

◎会長

砂田委員のおっしゃるような趣旨に沿う評価シートの提案が出ていますよね。資料5の推進計画評価シートは具体的な個別事業にかなり近い。例えば、堺市文化振興財団事業補助の中項目のシート。我々に配られているのは、大項目（基本的施策）の評価シートと中項目（具体的取組）の評価シート。個別事業評価シートはまだ来ていません。その次に、資料6の全体評価があります。これは、「文化芸術活動を行う環境の整備」そのものについて意見を言える。つまり、資料2でいうと基本的施策の1番です。1番の基本的施策自体について評価してくださいということなので、これは大項目の評価です。個別事業の評価については審議会の預かる仕事としては細かすぎる、むしろ現場がやるべきだと思います。このあたりについてはいかがですか。

●事務局

その形で進めていただくとありがたいです。

○砂田委員

昨年度の評価時期は年度後半でした。昨年度の最後の審議会は3月でしたが、そのとき私は、30年度の評価も辛口になるのは明らかであるという発言をしたと思います。この2~3か月で、事業主体である文化課と財団がどれだけ進化したかという、なかなか難しいと思います。おそらく評価結果が昨年度と類似した内容になるのではないかと想像できたので、先程のような意見を言いました。

◎会長

ここから先はご自由にご発言ください。各委員に手分けして現場を視察し評価していた

だくことが後ほどの議論になるので、この評価シートがどれくらいヒットするかは、やってみないと分からないというのが私の考えです。ご意見があればおっしゃっていただけたらと思います。

●事務局

資料をご覧いただいた上で今年度の評価をいただければと思いますが、昨年度はご視察いただいた上でのご感想を中心にご意見をいただきました。今年度は、資料5の裏側になりますが、取組実績や、視察を受けて30年度以降具体的にどのように取り組むかという部分も事業主体で記載します。昨年度の評価内容を受けて今年度に反映された取り組み等も入ってくると思いますので、それをふまえ、「評価の参考にこうした資料がほしい」、「もう少しこうしたことをしないといけないのではないか」等のご意見がありましたら、可能な範囲で対応しますので、おっしゃっていただければと思います。

◎会長

ここまで中間的に、疑問点を含めて、ひとつおteri発言していただきましょうか。原委員から如何でしょう。

○原委員

評価指標については、視察しながら考える方法が良いのではないかと思います。また、各委員が視察に行き、個別にシートに評価を記入しますが、現場でも今まで職員の方と対話する時間がありましたし、そういう時間を通して、視察を進めながらシートのデザインを確認した方が現実的かと思います。

◎会長

ありがとうございます。参考に言いますと、これについてはいくつかの都道府県と中核市、政令市では事例があると思います。各自治体がどのようなシートを使って、どのような価値項目を用いているのか、評価システムは分科会方式なのか、など。次回で良いですから、調べて補強資料としていただけたら、皆さん安心するのではないかと思います。私の知っているある自治体は、未だ暗中模索です。ただ、事業内容がコンセプトに合っているかということに関して、皆さん手厳しい評価をします。「辞めたらどうだ」という意見もあります。とある美術展の若者の参加率がゼロパーセントで、それに対する反省も修正も改善もされていないのは何故か、ということで紛糾したことがあります。

○原委員

評価をその次にどう繋げていくか。

◎会長

次年度でどういう対応をしたのか、きちんと報告をしてもらわないといけない。

○原委員

それをやっていくことが重要だと思います。

◎会長

書きっぱなし出しっぱなしでなく、次年度に、この意見についてはこう対応した、意見に誤解があればきちんと弁明しないといけない。文章に関しても、そのまま外に出ますから。それくらい重いものだと思います。抽象的な数字で出るものではなく、個別に委員が記入していくわけですから。

○安井委員

今年度の対象になっている基本的施策6の具体的取組がとても多く、どのように対応していくか、どんな評価をしていくのかなと思いました。

◎会長

基本的施策6については、視察する事業として「健康福祉プラザ事業」を提案する予定です。他分野との連携について、まず事務局として福祉を意識されているのかなと理解しています。あとは、教育との連携は初めから分かっているので、基本的施策3に入ります。残るは医療との連携やコミュニティ施策との連携等があると思いますが、ターゲットにするなら福祉かなという気はします。

○河内委員

砂田委員の心配されていることはよく分かるので、柔軟に対応していきたいと思います。委員も文章力が求められます。文章で印象を残してしていかないと具体的に変わっていかない。中身でいうと一番は「情報を入手しにくいと考える市民の割合」ですが、これは「市民」と言って良いのでしょうか。市外から来る方もかなり多いと思います。びわ湖ホールでも兵庫県立芸術文化センターでも、かなり広域に広報されているようです。「フェニーチェ」という言葉がどこまで浸透するかにも依りますが。やはり文化と観光は繋がっているので、市外の鑑賞者も調査できないかなと思います。

◎会長

「情報が入手しにくい市民の割合」という指標を外せということではなく、むしろ逆の発想で、市外に情報を持った人がどれだけ存在したか、市内だけでなく市外にもどれだけ発信力があるかということですね。

○河内委員

やはり政令指定都市ですし、ある程度の規模のマーケットがありますから。

◎会長

事務局に答えていただきたいのですが、「市外の間人がこれだけたくさん利用しに来るような施設はいかなものか、もっと市民が主体で利用するものではないのか」というような議論が起こり得るのか。また逆に、「文化観光産業施設に市外の間人をこれだけたくさん呼べて良いことではないか」という議論が起きるのか。

●事務局

一般的な話として、市は市民サービスを一番に考えていけないといけない。ただ、市民サービスを考える上で、市外からの評価であったり世界からの評価であったり、市内外に対して発信したりであるとか、やはり観光面では特に市外から来てもらわないといけないので、評価は多面的なものをいただけたら良いと思います。推進計画の策定時に、基本的施策1「文化芸術活動の環境の整備」でどのような評価指標を用いるかという議論を経て、「市民」に限定するということが今の指標があります。29年度の実績欄に24.9%とありますが、これは本市に市民モニターアンケートという制度があり、毎年500名ほど集めるモニターの回答から数字を出していますので、この数字はあくまでも市民をベースに出されています。ただ、おっしゃるような視点も必要であれば、次の計画を作るときに、評価指標もこのままで良いのか、変える必要があるのかといった点もご議論いただきたいと思っておりますので、ご意見があればいただけたらと思います。

◎会長

河内委員が言われたのは非常に重要な視点ですが、あるホールでも同じような議論があったと思います。「県外の間人ばかり観に来て、県民の利用率が低いのは何故か、県民のためのホールではないのか」という議論が議会で出ましたが、そうではなく、県の観光誘致や文化産業の促進の面で県外からの資本を誘致する誘導装置でもあると言いましたら、なるほどとおっしゃったのですが、それでも近辺の人しか利用できないという意見が出て、アウトリーチを始めたのです。必ず議会では議論が二通りされるので、それに太刀打ちしないといけない。

●事務局

文化施設についても市民の税金を用いて建設しますので、フェニーチェ堺でも、利用面で市内の方を優遇する部分についても考えています。一方、市外の利用者をターゲットにしていく必要もある。このバランスが非常に難しいと思います。

◎会長

市民文化政策としては公平平等に使ってくださいということですが、フェニーチェ堺のクラスであれば都市の文化施設でもあるわけですから、特化して尖った事業をやることも許してもらわないと、平坦で無意味な組織になってしまう。戦略的に二通りに分けないといけないと思います。その議論もこれからも並行して出ると思っていますので、共通の理解をしておきませんか。

○河内委員

そういう意味で、議会に出す資料については、数字だけを示すのではなく、何らかの意味で効果が表れて成功している事例を横に入れておく必要がある。

○服部委員

パッケージしないと分からないことなので、それは良いことだと思います。例えば、「今年は県民に対する企画を3割、県外に対する企画を7割やりました」というパッケージが

アクションだと思うので、そういう編集はありだと思います。

◎会長

堺は都市文化施設を持てる政令市ですから。都市文化施設で事業をするなら、外部から多くお客さん呼び寄せられるのが良い事業ですよ。一方、市民文化施設である各文化会館は、どれだけ子どもから大人まで行き渡るように努力したかで水平軸が変わる。そのことを審議会では共通確認事項として、余分な議論をする必要がないほど認識していると思います。それを人事異動があっても引き継いでいただきたい。

○原委員

条例においても、「次代を担う子どもたちを対象とした文化芸術事業の充実」を重点的方向性としているので、それが見えてくる施策が必要。例えば愛知県だと、県内に小中学生が7万人いることにちなみ、「芸術こども7万人プロジェクト」を行っています。土曜日にダンスを愛知まで観に行きましたが、火曜日から金曜日は小中学生だけを招待するという大胆な事業をしていて、そういうメッセージが伝わりやすい形の核になる事業を子どもたちに向けて行っていけると良いと思います。特に堺は、南の方から大阪に通勤する人の通り道でもあるので、そういった方たちに向けて、良いポジションの施設になるのではないのでしょうか。フェニーチェ堺に関しては既に色々決まっていると思いますが、パッケージや編集の仕方について戦略的に考えていく。これはもしかしたら審議会の仕事ではないかもしれませんが、是非そうした部分を現場の方にも考えていただきたい。

◎会長

それについては確認しています。財団にも、各事業について推進計画と紐付け、関わりを明確にしてくださいと言っています。その上で抜けている項目があれば、これが抜けています、その部分は財団でできます、できないので行政でやってください、或いは各文化会館でやりますというように、もう一度点検しないといけませんねという話はしています。

●事務局

会長がおっしゃるように、財団との共通認識で、推進計画に沿う形で事業をしっかりと行っていく。今まで、例えばホール事業であればお客さんに喜んでもらえるか、どれだけお客さんに来てもらえるか等の視点もあったかと思いますが、やはり計画の目標を達成するための事業については財団も強く意識しており、昨年度から見直しを行っています。原委員も言われたように、「次代を担う子どもたちを対象とした文化芸術事業の充実」を重点的方向性に位置付けていますので、例えば小中学生を対象とする鑑賞事業やアウトリーチを行ったり、また、今年度は文化課で未就園児を対象にした新規事業を打ち出して幅を広げたりしています。常に計画を意識しながら、市も財団も変えられるところは推進計画の変更を待たずに随時やっていくということで、フェニーチェ堺でも意識して準備していますので、しっかりやっていきたいと思っています。

◎会長

一定の拘束力を有する計画ですので、「関係ないです」は認めません。その場合は釈明し

てくれというくらいの覚悟があるくらいの計画だということを共通認識にしたいと思いません。では、発言されていない方を優先してご意見をお願いします。

#### ○堀場委員

評価指標について、現場に出ながら適宜修正していくのは私も賛成です。実際見てみると、指標がどのように機能しているか分からないと思うので。また、視察した委員が意見を出して、その後どう変わっていったかのフォローをどうするかが気になります。今後どのような流れで委員が関わっていくのか、報告だけで後は基本的にお任せするのか、何か決まっていることがあれば伺いたいです。

#### ◎会長

報告が出た時点で、事業がどれだけ変わったのか追及すべきです。実績を出してくださいと言っても構わない。それくらいのことができる実力者が揃っていますし、信頼して良いと思います。

#### ○弘本委員

評価方法については適宜報告が良いと思いますが、昨年度に皆さんが指摘されたことのもう一つポイントで、例えば文化会館事業で、独自指標の設定が弱いといいますか、一部の館ではしっかりイメージして独自指標を設けられているけれども、横並びで均一な独自指標を設けている館もありました。今回も具体的取組の評価にあたり、数値目標そのものが重要であることは十分理解できますが、独自指標がどのくらい意識されているか、審議会は意図して見ていることが伝わるように事務局に調整していただけると、独自指標に基づいた評価をして、次の年度に反映するというサイクルを作りやすいのではないかと昨年度の評価の中で思いました。それから、フェニーチェ堺や利晶の杜、文化施策に関わるまちづくりの条例や阪堺線の活性化など、堺のまちの中を人が回遊することに文化政策が貢献できるかが大きなポイントになると思います。そのこと自体はシートに詳しく書き込むことではないかもしれませんが、まちへの波及効果という視点からどのように評価できるかということも、意図的に見ていくような姿勢を持つ必要があると思います。前回の審議会で財団の情報誌のマップについて指摘したように、施設と最寄り駅だけに目が向き、まちの中にある阪堺線などの資源に視点が届きにくいという問題が起きるのも、まちとの連続性、まちへの波及効果や回遊性の視点が弱いことに由来するのかなと思いますので、独自指標の設定にあたっては評価にあたっては重視したいと思います。

それから、昨年度の意見でもありましたが、文化会館等で活動している人たちの多さが堺の市民力の現れでもあり、とても重要だと思いますが、活動している人たちで飽和している部分もあり、そこに入れたい人々に如何に文化政策の手を伸ばしていくかが、先刻の子どもの事業もそうだと思いますが、非常に大きな課題になっているのではないかと思います。特に経済格差も広がっている中で、「感動」という経験を全くしたことのない子どもたちも確実に増えているので、そこをどう考えていくかを意識する必要があると思います。

#### ◎会長

確かにそうです。見込み観光客数だけでは駄目だということです。

○弘本委員

数年前に都市交通の検討に関わらせていただきましたが、そこでも堺の決定的な弱点は回遊密度の低さでした。都市構造にも係っていると思いますが。

◎会長

間接的には市内の定期バス、巡回バスの乗降客数、阪堺電車、タクシーの乗降客数に反映されるのだらうと思いますが。回遊性は重要な視点ですね。

○服部委員

有機的という話を挙げていただいたので、まさしくそうだなと思っているのと、会長がおっしゃるように、評価指標は視察しながら見直せば良いと思います。ただ、基本的な評価事項は決定しているので、あとは余白部分を審議会でどのようにトピック化していくかが重要だと思っていて、やはり背筋が伸びるなと思いながら聞いていました。

○丹波委員

前年度に視察に行かせていただきましたが、どのような目的・意図で、どのような工夫をしているかという、事業自体の工夫も指標に入れたいです。また、堺という土地柄で、その事業が、文化振興だけでなく、どのような地域課題の掘り起こしや解決に繋がるかということも視野に入れたい。私は劇団をやっていますが、公演をすると、高校生・大学生で初めて舞台を観たという子どもたちもいて、今は学校で観ないのかと思って、市町村によって違うと思いますが。先ほど原委員が言われたような、例えばホールに1,000人来たら1,000人来たという実績になるかもしれませんが、そのうち800人が小学生であったなら、それはそれで取り組みとして評価できるというか、そうした視点を事業主体や市が持っているのか、そういう視点で見たいと思います。

◎会長

それは初めから我々が主張してきたことですね。何のために、誰をターゲットにして、どのような社会的変化を起こすために事業をやっているのか問い続けていきましょうと。

○丹波委員

それは評価シートに反映されていきますか。

◎会長

評価シートに反映されてほしい。大・中項目になると、それが抽象化されますが。

○丹波委員

評価シートを見ると、それが埋もれている感じがします。文字って大事じゃないですか。そういうのを文字としてどこかに起こしたいなと、先ほど砂田委員が言われたときに、そういう言葉を入れたら良いのではないかなと思いました。

◎会長

提案ですが、評価シートに、「このシートは雲を掴むようではないか、個別の事業から書き起こすべきではないか」ということや、「全然真ん中の柱に響いていないではないか。大きなことに全く影響していないと思う、その不信感を解消してください」ということを書いても良いと思います。

○丹波委員

具体で突っ込んでいくという。その方が響きやすいかもしれませんね。

○田辺委員

最初の頃の市民のアンケートで、子どもが対象の施策というのは皆さん関心が高かったと思いますが、そういう意味で今年度は子どもの文化活動の評価に力を入れて細かくやっ  
ていけないといけないのではないかと思います。堺は市外から来る人が少ないと思うので、市民の評価も重要ですが、やはり市外からどれだけ堺に来てもらうかということの評価し、改善することも必要だと思います。

◎会長

非常に重要だと思います。シートにある「有効性」などの言葉に拘らず、直感的に書いていただくのが正しいと思います。それをそのまま如何にブレイクダウンするかが事務局の仕事かと思  
います。

○添田委員

3つのことを申し上げます。

1つめは、砂田委員や服部委員がおっしゃるように、有機的に指標を見直すという方向性に賛成です。ただ、評価する前に指標をいじるのは現実的ではないので、評価の後に、議題の中で評価を見直す、評価自体の評価を入れることが重要だと思います。

2つめは、堀場委員も言われたことですが、評価結果がどう反映されているかはチェックしたいです。29年度の評価が出るのは30年度の終わりか31年度の最初になると思いますが、そのタイミングで29年度の評価がどうなったかという報告を受けるということ  
を、審議会の議題にすべきかと思  
います。

3つめは、個人的な意見ですが、抽象的な議論が今日も出ていますが、早く現場を見たいし早く評価したいなという気持ちです。

◎会長

よく分かります。ありがとうございました。

○砂田委員

今年度の評価対象は、既に文化芸術を消費している人の活動を評価するという印象が強い  
です。例えば、資料8-4の「健康福祉プラザ事業」の説明文からして、「既に文化芸術活動に興味や関心があり障害のある方」とあります。これでは、障害のある方で文化芸術に関心のない方や新規の方をどのように増やしていくのかということがあまり見受けられ

ないので、何か手を打てないかと思います。資料 8-3 の「堺市展開催事業」も既に美術で活動されている方のための事業ですし、資料 8-2 の「さかいミーツアート」も、これは学校に芸術家が出張する事業ですが、自らが文化芸術を消費しようと子どもたちが思っているのではなく、学校で強制的に文化芸術に触れることとなります。ですから、より多くの市民に文化芸術に触れてもらうにはどうしたら良いかを検討するには、少し材料として足りないのではないのでしょうか。

◎会長

より多くの人に文化芸術に触れてもらうアイデアというのは何か、案をお持ちですか。

○砂田委員

より多くの人に広がりをもたせるための工夫がどうなっているかという部分に注目して評価したり意見を述べたりするような事業を視察する必要があるのではないのでしょうか。

●事務局

砂田委員から、今年を 1 年目とする評価についてご提案をいただきました。次の議題でご説明しますが、視察する具体的取組についても、事務局から提案させていただいたものよりも他の事業が良いのではないかということがあれば提案していただき、取組内容を見直した方が良いのではないかということがあれば、視察後にご提出いただく調査報告書や現場でお話をいただいて、すぐに反映できるところは反映しますし、難しいものについては来年度以降に反映できればと考えております。

◎会長

視察対象の具体的取組については、行政側がある種の問題意識をもって選んでいると私は思っています。次年度以降は、審議会の中で「この事業や施設を視察したい」と委員から提案すれば良いと思います。今回の提案は叩き台だと考えてください。なお且つ、提案されている事業は、行政側が何らかの改善をしたいと思うから挙げているのではないかと思う節もあります。

### (3) 平成 30～31 年度対象事業の調査について

---

<事務局より説明>

<委員の視察希望調査>

◎会長

それではこれもちまして、第 1 回目の審議会を終わらせていただきます。ご協力ありがとうございました。

閉会

---